

## 1+1=3.5? ダブルホットケーキは良いかもしれない

by TERADA Jin

サウンドで定評あるホットケーキに新型がでました。  
ひとつの筐体にホットケーキ2台がただ搭載されているように見えてしまいますが、詳細を見ていくと、どうもそれだけではないようです。各所に工夫があって、なるほどと思うことしきりです。



2個搭載されているホットケーキの右側（ユニットA）は3ノブタイプのもので、この3ノブタイプに対して「オリジナルの2ノブタイプより音が固い」と言われることがよくあります。しかし、僕の経験ではそんなことはありません。オリジナルタイプのトーンスイッチをノーマルにしたものと3ノブタイプのプレゼンスを絞りきったものとサウンド比較すると驚くほど酷似します。また、オリジナルタイプのトーンスイッチをブライต์にしたものと3ノブタイプのプレゼンスを最大にしたものを比較すると、これもまた酷似します。回路を確認したわけではありませんので推測の域を出ませんが、従来スイッチであったものを連続可変のポットにして中間の状態にも設定できるようにしたのが3ノブタイプ

のホットケーキであると言えそうです。おそらくプレゼンスに絡む諸定数は、スイッチの時の設定をかなり参考にしているものと思われる。



このユニットの最大特徴は「クリーンな歪み」にあります。クリーンと歪み、矛盾した言い方ですが、これが実感です。ちょっとだけ歪ませたときの濁らない抜けの良さはこの機種ならではのものだと思います。この傾向は大幅にドライブさせたときにも維持されていて、音の輪郭が崩れません。これが「使用ギターのキャラクターを壊さない素直な音」と言われるゆえんです。同じような感触を目指してエフェクターを作っている僕としてはちょっと悔しい気持ちです。

左側のユニット B は「Bluesberry」です。これも高品位な歪みを生み出します。サウンドは日本製の某エフェクターに非常に良く似ています。ちょっとだけ滑らかなソフトな歪み方で、別の言い方をすると「優しい歪み方」です。この歪み方は日本の某エフェクターの独壇場で世界を席卷してきました。最近の海外のデジタルエフェクターにも搭載されている例がありますので、相変わらず人気は高いようです。

こちらの「ちょっと歪み」はクランチ系というより滑らかに倍音が増えてファットになっていく傾向と言えらると思います。当然ですがエッジ感ユニット A のほうに分があります。

比較的耳にいたくないものを求めるのならユニット B は大いに使えるように思います。

ユニット A とユニット B を単体で使うときはこのような使い分けですが、では A と B を同時にオンにしたときはどうなるのでしょうか。

A+B ではユニット A のコントロールが切り離されます。つまりユニット A のつまみを回しても何も変化しません。かわりに真ん中にある赤いトップのポットがユニット B へのドライブつまみになります。A+B ではこのつまみとユニット B のドライブつまみとでツードライブということになります。他のコントロールはユニット B 側が受け持ちます。

この状態の音はホットケーキに新しい感覚を取り入れたものと言っても良いかもしれませんが。赤いトップのドライブつまみを上げた音はちょうどダイオードクリッパーのような歪み方です。この歪み方は鋭角的で、いかにも・・歪んでます・・と主張するものです。

実際の使用では、「ちょっと歪み」をどちらのユニットに受け持たせるのか、中くらいの歪みはどちらを使うのか、「もろ歪み」はユニット側で作るのかそれとも赤つまみに頼るのか、などなど選択肢が多そうです。1+1 が決して 2 ではなく 3 かそれ以上になっているところが流石だと思います。

バイパスに関してはオフ時はバッファ動作のようです。いわゆるトゥルーバイパスではありません。(ユニット B のバイパスには金接点のハード・リレーが使われているようで、さりげなく良い部品を使っているのに好感が持てます。)

しかし、バッファ動作であることは好みによって評価が分かれるかもしれませんが。僕にとっては各種機器のインプットインピーダンスなどをチェックしたり考えたりするときや、ちょっと問題のあるオールドの機種などを使うときに、大いに重宝しますので大変ありがたいです。もしトゥルーバイパスが好みであるのなら、外部のスイッチングでそれを実現することは容易ですので問題だとは思っていません。選択肢として全くありうるものだと思います。

あと一つ面白いなあと思ったのが裏蓋のねじ穴です。取り付けねじが通るこの穴は、塗装をはがして、裏蓋がねじを通じてアースに落ちるようにしたほうがノイズ対策上有利です。塗装をはがさなくてもアースに落ちていることもあります。より確実にするためにそういう処理をします。ホットケーキでは 1 カ所の穴だけ进行处理しています。オールドを見てもそうなので、きっとすべてそうになっていると思います。ですから裏蓋の取り付けねじは必ずこの塗装をはがした穴に 1 本は必要であるということになります。ねじを無くしたりして数が減っている場合でも、必ずこの穴にはねじを止めるように注意して下さい。

ちなみに僕の Aleatorik では 4 カ所の穴すべての塗装をはがしてあります。どこにねじをつけても裏蓋がアースに落ちるように考えたからです。この辺りにポールさんとの考え方に違いが見られて、興味深いです。

結局のところ、ポールさんは最低限の知識をユーザーに要求しているのか、あるいはねじは無くさないで必ず止めるものなのだというユーザーに対する信頼を持っているのかのどちらかです。僕は後者のような気がします。サウンドやちょっとしたところに人柄が見えるようで、とても嬉しいです。

消費電力は 2 ユニットの搭載しているのにも関わらず少なめです。2 個の LED を点灯させた状態で、実測で約 6.5mA 流れていました。電池の持ちは大変良いと思われ。使用電池はアルカリでも良いのですが、僕はマンガンのほうが好みに合います。長持ちしないということはありませんが、マンガン電池はアルカリの 5 分の 1 以下の値段で買えますので、気をつけて新しいものと交換するようにすれば問題は無いのではないのでしょうか。もちろん普通の AC-DC アダプターも使えます。Boss の PSA-100G か Digitech の AP-2 (PS200R) をおすすめします。AC-DC アダプターにもいろいろありますので注意が必要です。

PSA-100G は実測で約 9.15V でした。AP-2 は 9.6V と高めの電圧設定になっていますので他のアダプターとは感触が異なるかもしれません。

最後になりましたがいくつかの設定例をあげておきます。参考にして頂ければ幸いです。

S--1



S--2



S--3



S--4

